

手堅く狙って 株価は3~5倍!? **これが銘柄選びの秘訣だ!** 中期経営計画の研究

全国500万人の個人投資家の財産づくりを応援!!

株主手帳

327社の
有力情報掲載

2018年
2月号

定価 700円

2018年2月1日発行 毎月1回1日発行 / 通巻767号 昭和33年8月6日第3種郵便物認可 昭和32年12月26日国鉄東局特別扱承認雑誌第199号

特集 **これが銘柄選びの秘訣だ!**

手堅く狙って
株価は3~5倍!?

中期経営計画の研究



強力連載陣も絶好調!

北浜流一郎の投資指令

株価上昇の環境作るトランプ大統領はさすが!
米国の大胆な税制改革で日本株への恩恵期待

杉村富生のマーケットレター

本格的な“投資の時代”が到来する!

増井麻里子のズバリ! 業界分析

【第1回】ホテル業界

証券経済アナリスト 清水洋介の辛口放談

高値を抜けない日本株

丸山隆之の勝率9割の株式投資

2月も買いで勝率高し!&ボラティリティ10%を見極める

白石定之の株式投資でうまくいく人いらない人

【第1回】一喜一憂しない

IFA 原田茂行のテーマ株大捜査線

【今月のテーマ】第5世代移動通信システム

百戦錬磨・中西文行に聞く今月の相場格言

「相場(儲け)に王道なし」

社長
インタビュー



TOTO

喜多村 円 代表取締役社長

株主手帳が探します!!

国内市場の良い会社

- 【過去最高益】日本毛織
- 【新規上場インタビュー】MS&C Consulting
- ウェルビー/シルバーライフ
- 【注目企業ウォッチ】プラップジャパン
- 【注目企業の新社長に聞く】明豊エンタープライズ
- 【トップシェアカンパニー】ライドオンエクスプレス
- 【バリュー銘柄】セキド
- 【技術が光る先端企業】シンニツタン

経営者が語る
成長への施策は!?

銘柄研究

セコニックHD/NC HD
マツオカコーポレーション/明治機械

新興専科

アイレックス/OSGコーポレーション
SKIYAKI/シー・エス・ランバー

シルバーライフ

10月25日上場 [9262・マザ]

初値 4630円 騰落率 185.2%

単元 100株 決算 7月



清水貴久社長

高齢者向け配食サービスを提供
ローコスト製造とメニューの豊富さ両立

高齢者向け配食サービスのフランチャイズ(以下・FC)運営を手掛け、昨年10月にマザーズに上場したのが、シルバーライフだ。国内の高齢者人口が増え続ける中、2007年の創業以来右肩上がり業績を拡大している。

「飯を作りたくても作れない」こうした主に後期高齢者(75歳以上)の個人宅に配食サービスを手掛けるのがシルバーライフだ。「まごころ弁当」、「配食のふれ愛」という屋号でFCを展開する。「まごころ弁当」では367店、「配食のふれ愛」は、196店が加盟。加盟店は、本部から届く調理済みの食材を盛り付け、配送する。

立地の良い場所に店舗を設ける必要がなく、厨房設備なども不要のため低コストで開業できるとあって、加盟店が増え続けている。同社はこれら加盟店に対して食材を提供。FC店の売上高の伸びに比例して、同社の食材販売売上も伸びるといふわけだ。

高齢者向けの配食サービスを手掛ける企業がある中で、同社の

強みは1食だけでも配食すること、そしてメニューの豊富さと手頃な価格にある。高齢者が喫食することを考慮した柔らかさ、味付け、栄養バランスを考慮し、飽きのこない豊富なメニューを1000品用意。売れ筋の普通食(おかずのみ)450円(税別・送料込み)という低価格で提供している。これを実現しているのが、群馬に設ける自社の食品工場だ。

通常の食品工場では同じものを作り続ける単一の製造ラインが一般的だが、同社では、豊富なメニューをランダムに生産するのに対応する製造ラインを開発。これにより、品数が多いにも関わらず、利益が出せるローコスト製造を確立。収益面での成長も期待できる規模に拡大している。

2055年まで市場は拡大

2017年7月期の同社の売上高は前期比26・4%増の52億4500万円、営業利益は同28・5%増の4億7500万円となっている。高齢者向けの配食市場規模(個人宅向け)は2016年で1190億円だが、2020年には1470億円への拡大が見込まれている。

「団塊の世代が後期高齢者になる2055年まで増え続けるため、配食の市場拡大も見込まれます。

高齢者向けサービスは医療や介護保険に依存するものが多いですが、配食は唯一と言っているほどこれに左右されずに成り立つシルバービジネスなんです」と清水貴久社長は話す。

こうした市場拡大を背景に、FC加盟店の伸びにより事業拡大が期待できる同社だが、高齢者施設向け等の販売等も急速に伸びている。これは、有料老人ホームなどの施設向けに配食を提供するというもの。これら施設では従来、調理などを行い食事の提供を行っていたが、調理者不足や業務負担の軽減などから外部委託の需要が高まっていると言う。これら施設への配送は、FC店のネットワークを活用できることもあり、相乗効果を呼んでいる。既に3500ヶ所以上の施設が同社に配食を依頼しており、この分野での成長も見込む。

同社では需要の高まりを見込み、第2食品製造工場の建設を計画。強みの製造ラインを強化することで、高齢者向けの配食市場でトップシェアを狙う。

「高齢者向けの配食FCは市場がまだまだ拡大するため、10〜15年後には1500店舗への拡大を目指します。また、施設向けや業者等へのOEMで製造シェアを広げて行きたい」と(同氏)と話す。